



Blu-ray Disc™ Updates

ブルーレイディスク アソシエーション ニュースレター Vol. 9

報道関係各位

2009年2月27日

BD 関連市場、2008 年に大幅に伸張

～販売数において BD メディアは 9.7 倍、BD 対応レコーダーは 8.5 倍に（対前年比）～

2008 年、Blu-ray Disc™ (BD) 対応レコーダー、パソコン、ソフト、メディアの販売数がそれぞれ大幅に増加したことが GfK Japan の調査でわかりました。特に BD メディアの販売数は対前年比で 9.7 倍、BD 対応レコーダーは 8.5 倍となっており、消費者の購入傾向において既存製品から BD 関連製品への転換が急速に進んでいることを示しています。

今回の調査結果について Blu-ray Disc Association (BDA) は次のコメントを発表しております。

「2008 年は BD の普及が爆発的に進んだ記念すべき最初の年となりました。

背景として、①BD の高画質/高音質といった特長が一般消費者の方々に広がり購買意欲

が高まったこと、②対応製品が多数発売され製品の選択肢が広がったこと、③次世代 DVD の規格争いが終結し消費者の方々が BD 製品を購入する上での環境が整ったこと、の 3 点があると考えています。今後も 2011 年の地上アナログ放送の停波に伴い、地上デジタル放送対応の大画面テレビの普及が進むことが予測されており、それにあわせて BD 対応製品の販売数も増加することが予想されます。」

製品名	2008 年1-12 月 販売数の対前年比
BD メディア	9.7 倍
BD 対応レコーダー	8.5 倍
BD 対応パソコン	4.1 倍
BD ソフト	4.0 倍

(GfK Japan 調べ)

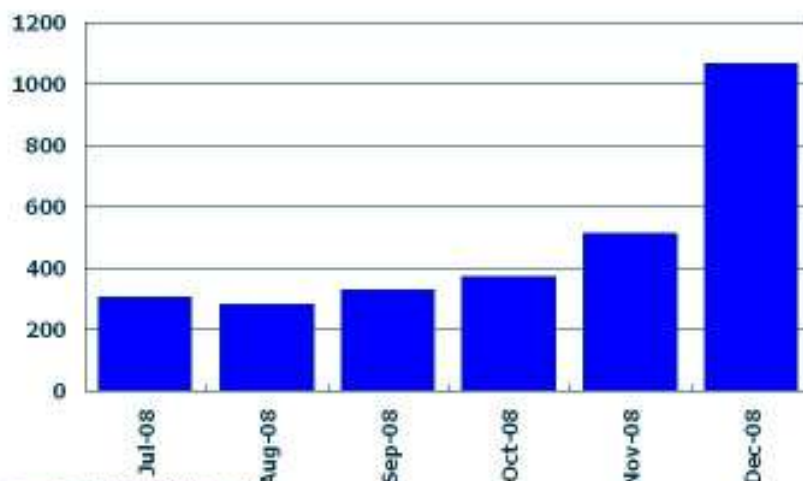
BD ソフト販売枚数、前月比で 2.1 倍に

～2008 年 12 月、過去最高の販売枚数に～

BD ソフトの販売枚数が 2008 年 12 月に前月比で 2.1 倍を記録し、過去最高となったことが市場調査会社 GfK Japan の調べで明らかになりました。2007 年 10 月の販売枚数と比較すると 2008 年 11 月には 5.1 倍、12 月には 10.7 倍となっています。

BDソフト 販売台数トレンド

Source : GfK Japan



※2007年10月期の販売台数を100とする

今回の調査結果について BDA は次のコメントを発表しています。

「景気の後退が叫ばれる中、2008 年 12 月には BD ソフトの販売枚数が大幅に伸張する結果となりました。背景の 1 つとして、同月に『ダークナイト』や『バイオハザード』など注目度の高いタイトルが多数発売されたことがあります。高画質/高音質といった BD の特長に対する認識が高まる中、2009 年も数多くの魅力的なタイトルが発売される予定で、今後もさらなる市場の拡大が期待されます。」

「ブルーレイディスク™ マスタークイズ」セカンドシーズンが本日開始

BDA は本日、BD に関する知識を広めることを目的に運営している知識検定サイト「ブルーレイディスク™ マスタークイズ」において、セカンドシーズンを本日(2 月 27 日)より開始することを発表しました。

このサイトでは検定の受検者として AV 機器販売店スタッフならびに消費者の方々を主に対象としており、BD に関する機能や歴史、あまり知られていない情報などを 2-4 択のクイズ形式で出題します。クイズは難易度別に「初級」「中級」「ブルーレイディスク™ マスター検定」(上級に相当)「アドバンス」の 4 つの級に別れており、利用者は自分の知識レベルに合わせて受検することができます。

セカンドシーズンからは受検者が BD について知識を学習するためのコンテンツをさらに追加しており、より BD について学びやすいサイトとなっています。昨年 9 月から 12 月まで実施したファーストシーズンには 194 名の方が「ブルーレイディスク™ マスター」を取得するなど、大きな反響がありました。



画面イメージ

セカンドシーズンにおいても、それぞれの級に合格することでデジタル認定証やその級の合格を示すブログパーツ^{注 1}のダウンロードが可能となります。また「ブルーレイディスク™ マスター検定」に合格した AV 機器販売店スタッフ、ならびに登録された消費者のうち成績上位の方々には名前と認定シリアルナンバーを印刷した認定証をお送りします。販売店スタッフの方々は店頭にて認定書を掲示することも可能です。なお、「ブルーレイディスク™ マスタークイズ」セカンドシーズンは AV 評論家の本田雅一氏が監修を行っています。受検料は全て無料です。

今回の「ブルーレイディスク™ マスタークイズ」セカンドシーズンの開始について、監修者である AV 評論家の本田雅一氏は次のように語っています。「BD は、ただ容量が増えただけの光ディスクではありません。より進んだエンターテインメントを家庭にもたすため、様々な工夫が凝らされており、コンテンツ業界、家電業界が一致協力して開発されたものです。BD についてより深い知識を持つことは、自分自身の楽しみ方を広げることにもなります。店頭で正しい BD の楽しみ方や魅力を伝えてもらうためにも、AV 機器販売スタッフの方々にも多く受験していただければ幸いです。」

【「ブルーレイディスク™ マスタークイズ」 セカンドシーズン 実施概要】

■ 実施級

初級 / 中級 / ブルーレイディスク™ マスター検定 / アドバンスト

■ 実施期間

2009年2月27日～5月下旬

■ URL

<http://www.blu-raydisc.com/meister>

■ 「ブルーレイディスク™ マスター検定」合格者特典

AV 機器販売店スタッフの方：

- 1.専用スタンド付き認定証(サーティフィケーションシート)
- 2.カードバッジホルダー付き認定プラカード
- 3.デジタル認定証(画像)
- 4.認定ブログパーツ

消費者の方：

- 1.デジタル認定証
 - 2.認定ブログパーツ
- (※すべて実施シーズン、認定シリアルナンバー、名前入り)



ブルーレイディスク™ マスター デジタル認定証(イメージ)

ブログパーツ^{注1}: ブログ本文の横側などに表示させる小さなコンテンツ。既存のものでは時計やニュースのヘッドライン、占いなどがある。

「第1回 DEG ジャパン・アワード / ブルーレイ大賞」、授賞作品を発表 ～グランプリに「ダークナイト」～

「デジタル・エンターテインメント・グループ・ジャパン (DEG ジャパン、URL: <http://www.deg-japan.jp/>)」は、BD の特長を最も引き出した BD ソフトを表彰する日本初の賞「第1回 DEG ジャパン・アワード / ブルーレイ大賞」の受賞作品を発表しました。

同賞では2008年1月1日から12月31日までに国内で発売されたBDソフトの中から「高画質」「高音質」「インタラクティブティ」などの性能および機能を最も引き出した作品をそれぞれ表彰しました。審査委員長を麻倉怜士氏 (AV 評論家) が、また審査委員に藤原陽祐氏や本田雅一氏 (AV 評論家)、映画 / DVD 専門誌の編集長、機器メーカーの AV エキスパートなどがそれぞれ担当しています。同アワードのグランプリには、特に画質

「第1回 DEG ジャパン・アワード / ブルーレイ大賞」受賞作品リスト

賞	部門	受賞作品
グランプリ		ダークナイト
ベスト高画質賞	実写部門	ダークナイト
	アニメ部門	ナイトメアー・ビフォア・クリスマス コレクターズ・エディション (デジタルリマスター版)
ベスト高音質賞	音楽部門	NHK クラシカル 小澤征爾 ベルリン・フィル「悲愴」2008年ベルリン公演
	映像部門	GHOST IN THE SHELL/攻殻機動隊 2.0
ベスト・インタラクティブティ賞		バイオハザード ディジェネレーション
審査員特別賞		NHK スペシャル 映像詩 里山II 命めぐる水辺
		平井堅 / Ken Hirai Live Tour 2008
		“FANKIN’ POP”
		ザ・マジックアワー ブルーレイディスク 眠れる森の美女 プラチナ・エディション

(DEGジャパン 発表資料より)

の高さが評価された「ダークナイト」(ワーナー エンターテインメントジャパン株式会社/ワーナー・ホーム・ビデオ)が選ばれました。「ベスト高画質賞」「ベスト高音質賞」「ベスト・インタラクティブティ賞」「審査員特別賞」の各賞の受賞作品は上図の通りです。

「第1回 DEG ジャパン・アワード / ブルーレイ大賞」の実施について、BDA では次のようにコメントしています。

「昨今、BD の持つ『高画質』『高音質』『インタラクティブティ』といった特長を活かした国内外のBDソフトが数多く発売されています。このような中で、これらの素晴らしさを消費者の方々に伝えることができる賞が DEG ジャパンにより創設されたことを歓迎いたします。今後も継続して良い作品を顕彰していただき、BD のさらなる普及への貢献を期待しています。」



グランプリを受賞した「ダークナイト」

(ワーナー エンターテインメントジャパン株式会社
/ワーナー・ホーム・ビデオ)

ブルーレイディスク アソシエーション (BDA)について

ブルーレイディスク アソシエーションは、ハイビジョン映画、ゲームソフト、写真、その他のデジタルコンテンツを記録・再生可能な次世代光ディスクであるブルーレイディスク™の規格策定、普及促進等を目的に活動しており、アップル、デル、ヒューレット・パッカード、日立製作所、インテル、LG 電子、三菱電機、パイオニア、パナソニック、フィリップス、サムソン電子、シャープ、ソニー、サン・マイクロシステムズ、TDK、トムソン、20 世紀フォックス、ウォルト・ディズニー、ワーナー・ブラザーズを始め、190 社以上が加盟しています。

本ニュースレターは、ブルーレイディスク アソシエーション(BDA)広報事務局より報道関係の皆様へブルーレイディスク™関連の情報をお知らせすることを目的にご送付しております。日々の報道活動におけるご参考として活用していただければ幸いです。

注)

”Blu-ray(ブルーレイ)” ”Blu-ray Disc(ブルーレイディスク)” は、ブルーレイディスク アソシエーションの商標です。

当資料に関する報道関係の方のお問い合わせ先:

ブルーレイディスク アソシエーション (BDA) 広報事務局
〒150-8343 東京都渋谷区渋谷 2-12-19 東建インターナショナルビル 9 階
株式会社プラップ ジャパン 内 担当:佐伯、藤沢
TEL:03-3486-6839 FAX:03-3486-0584 E-mail: BDA@prap.co.jp

※ BD 関連のお問合せ、取材のご依頼などについても上記 広報事務局までご連絡ください。